

(国) 福島大学

人間発達文化学類

教育実践コース

キャリア教養学科 (安積黎明高校出身)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

高校の大学受験に失敗した時です。小学校教員になりたいという自分の夢を諦めることができなかったので、高校の担任の先生から提案された編入学の道で、もう一度大学受験に挑戦しようと思いました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年生の後期からキャリアデザインで編入志望者向けの授業が本格的に始まります。主に小論文対策や志願理由書の作成、面接練習などを行います。合格した先輩方の話を直接聞く時間や先輩方に相談できる時間もあります。英語に関しては週に2回、編入英語の授業があるのでそこで単語力や長文読解力を高めていきます。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年生の後期に先生と面談し、志望大学の試験科目などを調べて取り組み始めました。英語は長文問題を何度も繰り返し解いたり、過去問を先生に添削していただいたりしました。小論文や志願理由書に関しては2年生になってから先生方に添削していただいたのですが、1年生のうちから書き始め添削してもらうことをお勧めします。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

一番努力したことは英語の向上です。私は英語が得意ではないので、最初は「やっておきたい」シリーズの300から始め、長文に慣れたら500と700を交互に進めていきました。1年生の春休みは、「毎日英語の長文問題を解く」という目標を掲げ、最低一題は解くようにしていました。また同じ問題を繰り返し解き、文法や単語の意味の定着に力を入れました。わからない単語はノートにまとめ、通学の時間や空き時間に目を通して覚えていました。毎日英語の問題に触れることで英語力を高められたと思います。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

グループディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングでの学びが力になりました。聖母のほとんどの授業はグループディスカッションが行われます。自分の考えを言葉にする力や相手を説得させる話し方を学ぶことができ、これらの力は編入試験の面接で役に立ちました。今後編入先の大学においても実践できると考えています。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

先生方からいただいたアドバイスはすべて励みになり役に立ちましたが、特に「数をこなした人が合格する」という言葉が編入勉強をする自分を奮起させ、頑張れた要因の一つだったと考えています。他の人よりも多く数をこなすことを意識して小論文作成や英語問題、面接練習を行っていました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①大学受験に失敗し、気持ちを切り替えられずにいました。

②新しい生活に対する不安がありましたが、充実した授業や行事を友人と一緒にすることで不安はなくなりました。

③今までやってきたことをすべて出し切り、悔いが残らないようにしようと思っていました。

④手応えがあるものとなないものがあったので、やり切った感はありませんでしたが無事に試験を終えることができ、気持ち的に楽になりました。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

何事も早めに行動することです。最初は何から始めたらいいのかわからないと思いますが、まずは行きたい大学の情報を収集し試験科目などを把握することが重要です。英検やTOEICの点数が必要な大学もあるので早めに確認し取得することをお勧めします。専門科目などがあった場合は、先生や先輩に相談し自主的に学習をしなければなりません。編入対策は2年生から本格的に始める人が多いですが、1年生のうちからやっておいた方が絶対に良いです。特にボランティアなどの活動は1年生の時に参加し、面接の話のネタを作っておくことが大切です。自分がやってきたことは必ず力になります。試験当日に頼りになるのは自分です。諦めずに頑張ってください。